

1. 基本情報

評価対象年度 ( 令和3 年度)

施策コード	122	施策名	生涯学習活動の支援
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)	
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち	
担当部	教育部	担当課	生涯学習スポーツ課

2. 施策の方向

10年後の姿	生涯学習機会の充実や、特徴を生かした図書館運営などによって、市民の生涯学習に対する意欲が高まっています。また、学んだ市民がその成果を発揮し、新たに指導的立場となって地域で活躍する「学びの循環」が生まれています。		
施策の方向性	1	市民ニーズを踏まえた学習活動を支援します	
	2	「学びの循環」を生かした生涯学習を推進します	
	3	地域の情報拠点としての図書館サービスの充実に努めます	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和3年度決算額
清瀬駅南口地域児童館整備事業	3	未来創造課	15,240
学力向上推進事業	3	教育指導課	25,353
文化活動振興事業	1、2	生涯学習スポーツ課	1,859
図書館運営管理事業	3	図書館	57,361
総事業費(施策の合計)			99,813

4. まちづくり指標

指標情報				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度	令和7年度	
①	名称	この一年で生涯学習を行う機会(学びの機会)をもつことができた人の割合		目標値	16.4	16.4	16.4	16.5	17.0
	説明	—	単位 %	実績値	15.1	15.1(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	92.1%	92.1%			
②	名称	これまで身に付けた知識や技術を自分以外のために活かしている人の割合		目標値	33.9	33.9	33.9	34.0	35.5
	説明	—	単位 %	実績値	32.2	32.2(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	95.0%	95.0%			
③	名称	この一年で図書館に行ったことがある人の割合		目標値	53.0	53.0	53.0	52.0	53.0
	説明	—	単位 %	実績値	44.9	44.9(※)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	84.7%	84.7%			

※①②③抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和3年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍においても生涯学習を行う機会を維持するため、新たに子ども大学を実施した。</li> <li>●清瀬市内で見られる植物・生物についてさらに深く学習するとともに、習得した知識を他の人にも伝えていただくことを目的に市民講座を実施した。</li> <li>●「学びの循環」をどのような社会情勢においても促進していくため、オンライン学習への移行や、生涯学習団体へのフォローを行っていく必要がある。</li> <li>●図書館運営管理事業では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、閲覧席を減らし館内の滞在時間も短時間に制限していたため来館者が減少した。</li> </ul>

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している  
 維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある  
 停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和3年度からの変更点	行政のデジタル化や社会全体でデジタルの活用が進められており、全ての方がこれに対応できるよう、デジタルデバインド対策が必要となっている。また、図書館運営管理事業については、一部座席の制限は継続しているものの、その他のサービスを再開していく。
-------------	---

7. 施策を進める上での課題

	施策を進める上での課題	社会情勢の変化を考慮し、「学びの循環」が実現されるような取り組み等計画的な事業展開を図っていく必要がある。
①	課題に対する令和5年度以降の取組	社会情勢に適した生涯学習講座を、オンライン配信、多摩六都科学館及び民間の活用など新しい方法を検討し、実施する。
②	施策を進める上での課題	新型コロナウイルス感染症が収束したとしても、来館者の図書館の使い方は変化していくことが想定されている。非接触でのサービスの在り方等を研究していく必要がある。
	課題に対する令和5年度以降の取組	「読書交流会」や魅力ある展示コーナーを設置することで来館者の増加に努め、電子図書館サービスやホームページの活用を促進していくとともに、次世代の図書館のあり方を検討する。
③	施策を進める上での課題	高齢者には普段からデジタル機器を使用する機会がなく、デジタルリテラシーの低い方の割合が多い。デジタルデバインドの解消を図る必要がある。
	課題に対する令和5年度以降の取組	スマートフォン体験会やデジタル活用支援推進事業の実施によりデジタルデバインド対策を図る。市独自の施策としては、清瀬市DX推進計画に沿って検討する。